

所弓便

第14号

NPO 法人 所沢市弓道連盟

会員 253名

関係者各位 様

所沢市弓道連盟は、平成二十六年十月二日をもって、新たにNPO法人として出立いたしました。

ここに慎んでご報告申し上げますとともに、旧来にましてのご厚情のほど宜しくお願い申し上げます。

NPO 法人 所沢市弓道連盟会長
新家 透

∞ 各部報告 ∞

【総務部】

所弓連会員数

11月30日現在の会員数は253名です。

26年5月以降新たに入会された会員

皆さんよろしくお願ひします。

飯尾 弘	村上尚美	奥村紘美	加田奈海
嶋崎恭徳	鈴木波流	本多由佳	坂川隆人
星野幸子	轟 俊生	作田憲三	松浦法夫
細川和子	小寺加代	笠川晋一	中沢卓美
宮本幸世	高田麻理恵	松石 遼	半田惣一郎
森 正貴	奈良博之	杉崎竜也	細川 博
松本久美子	植田裕剛	石川 舞	吉住真由美
小橋美加	塩原 崇	坂田英夫	田中小枝子

池谷雅子	石田 毅	石毛克恵	入澤真司
今井千鶴	植村亮子	山下恵美	内山智美
猪谷紗来	新井夏織		

昇格・昇段

平成26年4月1日以降26年11月末まで昇段・昇格おめでとうございます。

錬士	目黒千恵子	瀬賀邦夫		
六段	目黒靖彦			
五段	澤田靖子	藤田 良	山口ひろ子	竹下正博
	松本裕子			
四段	関口二郎	安江仁美		
三段	小島理恵			
二段	小寺芽衣	長谷川昌史	中西誠一	日野義弘
	山口信一	國友大裕	松村峰裕	宮嶋重明
初段	渡辺美枝子	加田奈海	新井寛子	長谷部元美
	坂川隆人			

部長会・理事会・総会

6月15日

第1回部長会

臨時総会への対応

- ・所沢市弓道場の将来に関する提案
- ・NPO 法人所沢市弓道連盟の概要 (案)

6月22日 (午後13:30~15:00)

弓道連盟臨時総会

- ・出席 148名 (当日出席57名、委任状91名)
- ・来賓
弓道連盟名誉会長 熊野神社宮司 三上嘉徳様
- ・新家 透会長挨拶 (抄)

5年前に現職に就任した時、元会長橋田榮次先生から「今度の役員は市弓道場(神社道場)をどのように維持・存続させるのかが最大の課題」との言葉を頂いた。その後台風、地震、大雪などがある度に40余年を経て老朽化した建物・構築物の損壊・倒壊の心配をしてきた。

その折、今年の県連新年射会である篤志家から大変結構な申し出（道場建て替えのため寄付の意向）を受け暫く自分の胸に納めていたが、この3月頃から宮司、氏子会、東・西新井町内会と会談した結果皆様から建て替えに前向きなお話を頂いた。

その後、所沢市と種々話し合いをした結果、所弓連をNPO法人化することで市弓道場建て替え可能の見通しがようやくできた。

私が20年以上弓を引き続けることが出来たのも先達がこの市弓道場を必死に守って来てくれたからこそと考えている。

私達が今回市弓道場を建て替える事が出来ると、50年は持つであろうし、その50年で建替費用を積み立てれば、100年先まで道場は存続することができると思っている。

全会員が力を合わせて100年先の後輩たちに市弓道場を残す夢を実現させよう。

・議長 草賀 淳相談役

・審議事項

① 所沢市弓道場（神社道場）の将来に関する提案

② NPO法人所沢市弓道連盟の概要（案）

・審議結果

全員一致で可決

8月17日

第2回部長会

- ・NPO法人化進捗状況
- ・神社道場建替え関係

8月24日

第1回理事会（参加31名）

- ・NPO法人化：7月14日県に申請
- ・NPO法人の諸規定整備
- ・神社道場建替：現道場撤去来年度

10月13日

第3回部長会

- ・NPO法人化進捗状況
 - 10月2日法人登記日（設立日）
- ・神社道場建替え関係
 - 建替え案（射場を広くする・射場控室を設置する・床暖房を検討する等）は大筋について了承された。

第47回武州弓道大会

平成26年11月16日(日)、所沢市民武道館において、恒例の「熊野神社弓祭・第47回武州弓道大会」が開催されました。朝から穏やかな陽の射す好天に恵まれ、近隣都県より424名という大勢の弓友の参加を得て、熱戦が繰り広げられました。

熊野神社弓祭武州道大会は、昭和40年に始められて以来、今年第47回を迎える歴史と由緒のある関東屈指の弓道大会です。

4年前より武道館に会場を移して開催されていますが、当日7時半に会長以下代表者12名出席のもと、熊野神社にて大会の安全と成功を祈願してお祓いを受けました。

大会々場では全員で熊野神社に遥拝。新家 透大会会長の開会挨拶に続き、ご来賓の内藤隆行教育長より、藤本正人所沢市長のメッセージのご披露とご挨拶、浅野美恵子市議会議員の名代として中毅志副議長、秋田 孝市議会議員、並木正芳当連盟顧問より激励のご挨拶を頂きました。

次いで、射手 新家 透会長、介添 石川淳子、増田裕子両錬士による矢渡の後、熱戦の火蓋が切って落とされました。

4射2中以上の予選通過者は214名(50.5%)。内、24名が4射皆中賞を獲得。

決勝射詰1回目で2射皆中の66名(30.8%)に絞られ、決勝2回目、最後の最後の1射で2射皆中者が25名となり、入賞25名がびったり決定するという息詰まる劇的な展開となりました。

決勝3回目からは8寸的となり、2射皆中者は9名。4回目で2名に絞られ、5回目に、決勝9

射を中て続けた 川越高校の松本英悟選手が栄えある優勝を飾り、トロフィーと賞品の竹弓を獲得。その他25位までの入賞者が、竹矢、矢筒、ジュラ矢など豪華な賞品を獲得して大喜びでした。

最後に草賀 淳大会委員長の講評のあと、また来年の再会を約して無事お開きとなりました。

今回、所弓連関係では、大会の運営に精力を使い果たしたためか、入賞者なしという残念な結果に終わりました。武州大会は所弓連の最大行事の一つですが、お手伝いだけに来て頂いた方も含め72名の大会参加会員の皆様には、前日の準備から当日のスムーズな大会運営にご協力頂き、深く感謝致します。ただ、400名を超える大きな大会の運営には、少なくとも90名程度の会員の参加は欲しいところで、いろいろ都合や事情はあるとは思いますが、来年はより多くの方の参加を期待致します。

競技に参加した10名を含め、今年も矢取りに一生懸命協力してくれた20名のスポーツ少年団の弓友諸君に感謝致します。(記録は後掲)



(スポーツ少年団員の矢取り)

市弓道場メンテナンス

4月10・23日

矢道芝施肥及び除草剤散布

5月27日

矢道芝刈り (1回目)

7月15日

矢道芝刈り (2回目)

8月19日

矢道芝刈り (3回目)



(炎天下での矢道の芝刈り)

【指導部】

定期講習会

平成26年4月から平成25年10月末までの講習会受講者数

橋田教室 (橋田榮次先生、草賀 淳先生) (毎月第1木曜日、第3土曜日)

受講者延 120名

水曜講習会 (見原重信先生) (毎月第4水曜日)

受講者延 123名

所弓連四段以下講習会

7月27日 (武道館)

講師： 草賀 淳先生

受講者： 9名

初心者弓道教室

【第1回】

期間：5月31日～6月29日 (於：武道館)

毎土曜日 午後2時～4時30分 全5回

毎水曜日 午後7時～8時45分 全4回(補習)

参加者数 19名 (内13名入会)

今年度第1回の初心者教室は、来年春の地方審査で全員初段合格が出来ることを目指して始めました。

最初の1ヶ月は、基本となる射法八節を徹底的

に覚え、その後7月から11月まで14回にわたる土曜日練習会では入・退場も繰り返し練習し、最後は審査方式の座射まで、取り分け体配に多くの時間を割いた講習が行われました。

受講生の来春の審査結果を見るのが待ち遠しくなる充実した講習会でした。



(受講生と先生)

【第2回】

期間：10月18日～11月15日(於：市弓道場)

毎土曜日 午後1時30分～4時30分 全5回
参加者数 12名 (内9名入会)

参加者がこの教室を知ったのは市広報とホームページがそれぞれ半々で、皆さん前から弓道に興味はあるもののなかなか実際に参加できる機会がなかったとのことでした。



(休憩中も先生から手解きを受ける)

4回目の講習では的に中る生徒さんも複数みえて、的中の音に先生達からも思わず拍手が上がり立冬の暦通りの寒い中にも関わらず盛り上がりのある講習が続きました。

♪～♪～ COFFEE・TIME ♪～♪～

レミさん

私が「レミさん弓道の魅力ってなに」と聞くとレミさん(仏蘭西人 六十代)は少し考えて、「音がいい、音の後の沈黙が素晴らしい」といつもの・いつもの優しい微笑みを浮かべながら静かに柔らかく答えてくれました。「そう、弦音、的中音その後の静寂がいいの」と私がかつてに先回りして返しましたがレミさんは肯くことなく優しく微笑んだままでした。

レミさんにとって道場での音とは単に弦音、的中音だけではないかもしれないし、「静寂」ではなくて「沈黙」としか表現しようがなかったのだと考えさせられる会話でした。

弓道教本の世界とは少し違う弓道観があるのかもしれませんが。このことは弓道に関してとかく教本ありきと単細胞になりがちな私にとってはハットさせられるお話でした。

また、私が「レミさん弓道の難しいところって」と聞くと、すぐさま「私の課題、力を抜くことが難しい、普段生活していて自然に使う力を抜かなければならないことが大変に難しい」と返ってきました。弓を引的に中てる事のみに必要な力だけを残し、その他の力を極力出さないようにする事は、洋の東西を問わず感じる難しさとても良く納得することができました。

それは、二千五百年前の弓道の達人者でさえその難しさ故に「射は、外体直くして弓矢を持つこと審固なり」と敢えて書き残さなければならなかった、いわば古今の弓引きの誰もが感じる難題なのでしょう。

レミさんは、何か日本の伝統的な事をしてみたいと思って弓道を始めましたが、長い間弓道が続けていることについて「道場では、年齢も立場も違う色々な人、理想を持っている人、そして自分の国の文化に興味のある人

「に会えるのがとても楽しい」と話してくれました。

そして、レミさんは弓道という文化を維持し更に高めるには、努力が必要なことを近年急激に俗化してしまった、東京近郊のある著名な信仰の山を例にとって私に教えてくれました。

Mr. KaTaBaMi

【競技部 (スポーツ少年団含む)】

《所弓連主催射会》

月例射会 (5月17日)

月例射会冒頭の新家会長の挨拶の中で“まだまだ不明確な点があるが市弓道場の建て替え計画があり地元氏子会の皆様にもあらあらご説明申し上げた”とのお話がありました。

(近的54名、遠的24名参加 市弓道場)

《遠的》

1位 下田 徹 2位 藤田 良 3位 瀬賀邦夫
4位 関口二郎 5位 三好啓子

《近的》

(2段以下)

1位 松村峰裕 2位 中根幸二 3位 杉崎竜也

(3・4段)

1位 中村康代 2位 澤田靖子 3位 小山 等

(5段以上)

1位 永田欣一 2位 下田 徹 3位 平山夏子

月例射会 (6月15日) (36名参加 武道館)

《近的》

(2段以下)

1位 杉崎竜也 2位 山口信一 3位 中牧万優

(3～5段)

1位 安江仁美 2位 水口 清 3位 土井政明

(称号者)

1位 粕谷吉一 2位 松壽 昇 3位 永田欣一

月例射会 (7月13日) (35名参加 武道館)

《近的》

(3段以下)

1位 土井政明 2位 関口研二 3位 長谷川昌史

(4・5段)

1位 奥富季乃 2位 中村康代 3位 竹下 眸

(称号者)

1位 下田 徹 2位 永田欣一 3位 平山夏子

(特別賞)

3段以下 安江仁美

4・5段 黒木智哉

称号者 篠原一郎

月例射会 (8月17日) (46名参加 武道館)

《近的》

(2段以下)

1位 新井忠文 2位 中根幸二 3位 杉崎竜也

(3・4段)

1位 安江仁美 2位 中村康代 3位 関口二郎

(5段以上)

1位 下田 徹 2位 平山夏子 3位 藤田 良

(特別賞)

野見山紫穂 甲斐久歳

第41回所沢市民弓道大会

平成26年9月14日(日)、絶好の秋日和に恵まれ、標記弓道大会が所沢市民武道館弓道場において、149名(学生97名 一般52名)の参加を得て盛大に開催されました。



(高校上級の部)

学生の部は、小・中学生、高校初級(1年生)、高校上級(2・3年生)の3部、一般の部は、二段以下、

三・四段、五段以上の3部にて、一人8射による熱い戦いが繰り広げられました。

学生各部の優勝者は、小・中学生：外園颯紀(吉祥女子中3年)、高校初級：内海隆太(所沢北高2年)、高校上級：福崎雅樹(所沢北高2年)の各選手。

一般の部の優勝者は、二段以下：中西誠一(二段)、三・四段：中村徳海(四段)、五段以上：澤田靖子(五段)の各選手。

各部優勝者による総合優勝決定戦は、学生の部は連続2射の中の外園颯紀選手が、一般の部は中村徳海選手が2射を詰めて見事栄冠を勝ち取りました。

《学生の部》

(小・中学生の部)

1位 外園颯紀 2位 小林実乃梨 3位 野見山紫穂
4位 藤野雄吏 5位 豊田琢真 6位 中牧万優

(高校初級の部)

1位 内海隆太 2位 奥泉優斗 3位 栗島剛輝

(高校上級の部)

1位 福崎雅樹 2位 佐藤美悠 3位 早川知宏

学生部総合優勝 外園颯紀



(学生の部の総合優勝戦)

《一般の部》

(2段以下)

1位 中西誠一 2位 林 義照 3位 宮嶋重明

(3・4段)

1位 中村徳海 2位 安江仁美 3位 関口二郎

(5段以上)

1位 澤田靖子 2位 熊井紀一 3位 粕谷吉一

一般の部総合優勝 中村徳海

月例射会 (10月4日)

(近的40名、遠的20名参加 市弓道場)

《遠的》

1位 関口二郎 2位 藤田 良 3位 三好啓子
4位 瀬賀かほる 5位 星川三樹男

《近的》

(2段以下)

1位 笠川晋一 2位 小寺加代 3位 松村峰裕

(3・4段)

1位 中村徳海 2位 瀬賀かほる 3位 中村康代

(5段以上)

1位 粕谷吉一 2位 藤田 良 3位 石川淳子

総合優勝 粕谷吉一

特別賞 (2段以下) 松村峰裕

(3・4段) 廣瀬雅孝 (5段以上) 熊井紀一

所沢市青少年三道大会 (弓道の部) (11月9日)

(中学生以下24名、高校生46名武道館)

青少年育成所沢市民会議主催の青少年三道大会が行われ、総合開会式は今年も市民体育館で弓道連盟が担当幹事として9時00分から開催されました。

開会式には会長と4人の役員、優勝カップ返還及び選手宣誓の高校生3名とスポ少3名が出席しています。弓道の部の開会式は9時30分から市民武道館で行い、理事長が会長代行をしました。

総合開会式出席者は矢渡しの頃に戻ってきています。

今年は女子の県高校弓道選手権があり、高校女子の参加者は秋草学園だけでした。全体で70名と昨年より26名少ない参加となっています。

若さと熱戦で射会が進められ、終了したのは午後1時近くです。朝方に雨がぱらついた程度で、その後は曇り空で肌寒い一日でした。個人総合優勝は参加人数の少なかった高校女子から初級の猪瀬さんが獲得しました。

《小・中学生の部団体》

- 1位 スポ少A 甲斐健太 黒子暁和 渡邊涼介
 2位 スポ少B 伊藤美優 野見山紫穂 吉田空翔
 3位 スポ少D 細沼亮太 柳川尚明 藤野雄史

《小・中学生の部個人》

- 1位 野見山紫穂 2位 甲斐健太 3位 柳川尚明

《高校生の部団体》

- 1位 所沢北B 小島嵩弘 静谷光一郎 早川知宏
 2位 所沢北G 比留間悠太 田澤功輝 酒井峻輔
 3位 所沢北F 内海隆太 須藤 遼 新井大夢

《高校男子初級の部個人》

- 1位 比留間悠太 2位 内海隆太 3位 酒井峻輔

《高校女子初級の部個人》

- 1位 猪瀬佳代 2位 高柴ゆい 3位 山下祐佳

《高校男子上級の部個人》

- 1位 早川知宏 2位 西原郁哉 3位 森川颯太

《高校女子上級の部個人》

- 1位 神田優希 2位 飯田芽実 3位 田中彩奈

《個人総合優勝》

猪瀬佳代(秋草学園)



(優勝杯を前にして)

第47回武州大会(11月16日)(武道館)

- 1位 松本英悟(川越高) 2位 飯岡宏了(江東区)
 3位 小林寿々(大宮東高) 4位 千葉なつき(吉川弓連)
 5位 海老澤祥太(坂戸西高) 6位 田村 蒼(埼玉大)
 7位 前野立志(城西大) 8位 鈴木真人(朝霞弓連)
 9位 中根奈津美(石岡桐弓会) 10位 相原利恵(茨城弓連)
 11位 山田大介(大和弓会) 12位 沼倉光広(日高弓連)
 13位 西澤圭佑(埼玉大) 14位 鹿野諒太(駒澤大)

- 15位 宮崎正範(川越弓連) 16位 長谷川健太(埼玉大)
 17位 佐藤陽平(大宮八幡) 18位 山口 純(蒼藤会)
 19位 関口慎之介(立教大) 20位 長井淳史(千葉弓協会)
 21位 小高正己(東村山) 22位 青木英里果(寄居城北高)
 23位 鈴木悠太(川越高) 24位 高崎麻友(所商高)
 25位 河内史彦(茨城日立化成)

《対外競技会》

秩父神社奉納第56回埼玉県下武道(弓道)大会(4月29日)秩父第一弓道場 参加者中学生(スポ少)15名 一般48名

《中学生の部団体》

5位

所沢スポ少E 甲斐健太 黒子暁和 青山恭子

《中学生の部個人》

2位 渡邊乃恵

《一般の部団体》

1位 所弓連C 澤田靖子 中村徳海 下田 徹

5位 所弓連F 粕谷吉一 篠原一郎 永島英男

《一般の部個人》

5位 中村徳海

入間市近隣親善弓道大会(5月5日)参加45名
 《個人》

4位 中村徳海 6位 下田 徹 7位 黒木智哉

9位 中村康代

《団体》

3位 所沢K 中村徳海 竹下 眸 下田 徹

ねんりんピック予選大会(5月14日)参加者6名
 選考選手 なし

埼玉県弓道選手権大会等(5月24日25日)

参加者 称号者部:10名、有段者部:10名

《称号者の部》

(県弓道選手権)

1位 下田 徹 全弓連会長楯 本橋民夫

(関東三県及び全日本出場選手2次選考会候補選手)

男子 本橋民夫 永島英男 下田 徹

女子 平山夏子

《有段者の部》

(関東三県及び全日本出場選手2次選考会候補
選手)

男子 中村徳海

同上2次選考会 (6月7日)

関東三県選抜出場選手 下田 徹

全日本選手権出場選手 本橋民夫

埼玉県実年者弓道選手権大会 (6月1日)

参加者13名

個人 2位 下田 徹

埼玉県弓道遠的選手権大会兼全日本遠的選手権 大会出場選手選考会 (7月6日)

男子5段以上 優勝 粕谷吉一 3位 本橋民夫

《全日本遠的選手権出場選手2次選考会 (7月6
日)》

出場者男子 本橋民夫 粕谷吉一 下田 徹

出場者女子 三好啓子

第57回三県選抜大会 (7月27日) 宇都宮

近的 称号者の部 5位 下田 徹

読売杯 兼 県体予選会 兼 寿射会 (8月3日)

参加者190名 (団体62チーム、個人4名)

内所弓連53名

読売杯

1位 中村徳海 4位 平山夏子 6位 藤田 良

9位 小林孝則 10位 上橋 宏

寿射会

1位 上橋 宏 4位 熊井紀一

県体選手

(三段以下の部)

中根幸二 関口研二 土井政明

(四・五段の部)

① 藤田 良 水口 清 星川三樹男

② 竹下 眸 小林孝則 中村徳海

(女子の部)

増田裕子 塩島佳代 松寄恭子

(称号の部)

目黒靖彦 平山夏子 下田 徹



(所弓連会員も53名参加しました)

西部支部選手権大会 兼 県武道大会選手選考会

(9月6日) 参加170名 (団体52チーム 個人14名) 内所弓連44名 スポ少12名

西部支部選手権

団体 2位 中村徳海 平山夏子 下田 徹

個人 1位 中村徳海 2位 藤田良

県武道大会選手

男子 中村徳海 藤田 良

女子 石川淳子 平山夏子 目黒千恵子

埼玉県勤労者弓道選手権大会 (9月7日)

所弓連12名参加入賞なし

第27回県民総合体育大会 (9月21日)

所弓連5チーム参加

《称号者の部》

(近的)

団体1位 目黒靖彦 平山夏子 下田 徹

(遠的)

団体1位 目黒靖彦 平山夏子 下田 徹

個人2位 下田 徹

第38回埼弓連女子部弓道大会 (10月20日)

所弓連 20名参加
称号者の部 5位 平山夏子

全日本実業団弓道大会 (11月8,9日明治神宮)

所弓連 3名参加
団体 予選 産業別で6位 (市役所チーム)
個人 女子の部 6位 澤田 靖子

西部・中部支部親善射会 (10月27日)

中部100名、西部86名、内所弓連33名
個人 18位 星川三樹男 19位 平山夏子
的中率 中部40.5% 西部31.4%

【スポーツ少年団】

(*スポーツ少年団の記事は、一部重掲、各種射会記録は競技部にも掲載しています。)

平成26年度スポーツ少年団初心者教室

(5月17日～6月21日まで 毎週土曜日)
参加者 19名 (中学生3名 小学生16名)
修了者 17名 (中学生1名 小学生16名)

平成26年度保護者会総会 (6月29日)

新入団員 16名 (中学生1名 小学生15名)

県民総合体育大会 (7月19日)

秩父第一弓道場 16名参加
(弓道中学の部)

女子個人優勝 青山 恭子
※8/22～23 全国中学生弓道大会出場決定

全日本少年少女武道錬成大会 (7月21日)

日本武道館
男子1チーム、女子2チーム 12名参加 全チーム予選敗退

全国中学生弓道大会 (8月22日～23日明治神宮中央道場)**(女子個人)**

青山 恭子 予選敗退

ところざわまつり (10月12日)

子供たちの素晴らしい笑顔に引き寄せられて、通りすがりの沢山の人達もカメラのシャッターをカシャ・ガシャ押していました。



(山車の前で)

スポーツ少年団弓道交流大会 (10月25日秩父)

参加 23名 (内14名オープン参加)
入賞者なし

∞ 投 稿 ∞**錬士を受審して**

目黒千恵子

今年6月15日、北信越地区錬士臨時中央審査(新潟県新津市)にて錬士合格を頂きました。

5月の東海地区臨時中央審査で、受審者の弓の先が左目付近に当たって怪我をし、又審査10日前から体調を崩した事もあって、的中は減り、体調が戻らないままの状態での審査でした。

午前中は学科試験、午後には実技試験でしたので、控えに入る前に主人に巻藁を数本見ってもらってから入りました。自分の番が来るまでの間、日頃指導して下さっている先生方や先輩方のアドバイス、普段の稽古が頭に浮かび、「今やれる事をしっかりやって、それで駄目なら仕方がない」という気持ちで射場に入る事が出来ました。

二次試験の面接が終了して射場に通過者が呼ばれた時、女性が私一人だったので更に緊張しました。

一次では束中したものの、二次では片矢でしかも悪い癖が出てしまったので主人と落胆していたら、受審番号を聞いてきた方がいて、答えたら「おめでとう」と言われたので急いで番号を確認した時は、張り詰めた糸が切れて涙腺が緩んでしまいました。

今は「錬士」という重圧を感じながら稽古していますが、皆様に感謝しつつ精進したいと思っていますので、今後ともご指導の程よろしくお願い致します。

幸 運

澤田靖子

6月15日群馬にて5段の認許を頂きました。5回目の受審となった今回、射が安定しないまま当日を迎え、せめて今出来る精一杯の射ができたらと、臨んだ審査でした。

幸運にも、前日お稽古させて頂いた藤田さんが私の前、という立順で心強く、藤田さんの的の中につられるようにして、私の矢が的に吸い込まれていきました。どこに中ったかわからないくらい緊張していましたが、退場して笑顔でむかえて下さった藤田さんと静かにハイタッチした時、安堵感で全身の力が抜ける思いでした。

合格した今、昇段する前にもっと学ぶべき事や、直すべき事が沢山あったのではないかとという思いにかられ、これから少しずつでも努力していきたいなと思います。

又、昨秋より、国体の育成会に出させて頂き、沢山のご指導を頂きながら、自分の力にできず、伸び悩み、思うようにならない不甲斐なさを感じていましたが、緊張感の中で、数多くの射をひかせて頂いた経験は私にとって、すごく大きかったと思います。

日頃より、根気強く教えて下さる先生、指導して下さい先生方、先輩、弓友の皆さん、そして、安心して稽古に向かうことができる環境を作って

下さっている所弓連の皆様へ感謝して、これからも難しくも楽しい弓道を続けていきたいと思いません。

五段審査の課題

藤田 良

平成24年の明治神宮が最初の審査、今回で5回目のぐんま連合審査で何とか合格することができました。

過去の失敗を振り返り、次の二つの課題を目標に稽古に取り組みました。

- ① 早気を直すこと。
- ② 離れの時に押手の振りを無くすること。

以上の二つを目標に日々稽古に取り組む、しかし射会が近づくことすべて振出しに戻ってしまうのです。的中優先の射となり、早気、押手の振りは思うように直らず、審査の日が迫るにつれ、焦り、悩むばかりでした。

審査を数日に控え、草賀先生に一手ご指導をお願いしました。その時のご指摘が“大三は肘を張り、引分けは頭の後ろを通して、胸を開くように”というご指導でした。

それらを意識して練習するうち会に入った時、いつもは止めていた呼吸が無意識にゆっくりと吐き出せるようになり、会も今までより長くなり、押手の振りもなぜか無くなりました。的を掴むような残心、この射が当日出来ればと自信になりました。

審査当日の立順は澤田さんと同じ、私が二的で澤田さんが三的でした。澤田さんの足を引っ張らないようにと気を落ち着かせ、一射一射練習通りに引くことだけを思い、特に大三の肘の張りを意識しました。その結果、皆中・・・何とか合格できました。

これも先生、先輩のご指導のおかげと感謝しております。次の目標に向かって稽古していきます。今後ともご指導を宜しくお願いいたします。

五段への準備

山口ひろ子

この度8月17日の明治神宮五段審査において五段を認許されました。

これも偏に諸先生、諸先輩、諸弓友の方々のご指導のおかげだと感謝致しております。

四段認許より長い時間が掛かってしまいました。その原因として、手の内の悪さ、離れにおける両腕の振れが挙げられます。それを克服しようといろいろ試してみましたが全然効果がなくむしろ悪い射へ行ってしまいました。

心が折れそうになったことが一度や二度ではありません。その都度もう一回頑張ってみようと心を奮い立たせて今日に至っています。

10Kに届かない弱い弓しか引けない私にとって三位一体でなければ中りはない事は解っていました。先生から稀に「今のは良い射だった」と言ってもらえる事があります。しかし、どの点が良くて良い射になったのか解りませんでした。そこで、数か月前から「良い射」と言われた時自分がどういうふう引いたかという事を分析しようと思ったのです。

諸先生方から指摘された言葉を思い出し、その射のどこに当てはまるのか、次はどうすれば良いのか・・・。

そして射法八節に思い至ったのです。八節の注意点をもう一度考えてみました。教本の“真善美”の“美”の中に力を用いないで弓を開くところに射の美しさがあるとあります。そこにヒントがありました。弱い弓の為に力を入れないと塚まで届かないと思いき余分な力が入り過ぎていたのです。

今回の審査で八節の中でも特に注意したのが“大三での張り”“左右均等の引き分け”“両腕の張り”“どこまでも引き分け”“天地左右への伸長”さらに“息合い”です。

そして奇跡が起きました。これからも精進してまいります。ご指導宜しくお願い致します。

「お守りのおかげ」

関口二郎

日々の稽古ではいい射が出ることは時々で、離れで下に切る癖や二段離れをしたりとご指摘頂くことも多く、不安の中審査当日を迎えました。

少しでも多く勉強しなくてはと、早めに学科の会場へ向かい、試験時間もめいっぱい使って学科を終えました。

射技の会場に戻ると先に審査を終えていた所沢の仲間たちが「駄目でした、失敗した」と口々にこぼして、皆思うことは一緒だなと思いました。

そして次の射技は今回が四回目。天候に恵まれず、巻藁を引くことが出来ないまま射技に臨むこととなりましたが甲矢を外したことで次の乙矢は開き直って引けたように思います。

先生からお守りとして巻藁矢をお借りしました。弓友からは三十三間堂の袋を頂き、その袋に登録料を入れ懐へ忍ばせ、射技の審査を受けました。お守りのおかげで結果は合格。片矢の合格で複雑な気持ちでしたが、今後精進せよと審査員の方々からのエールとして受け止め、更に稽古に励もうと思います。

先生のご指導、弓友のアドバイスに大変感謝しております。ありがとうございました。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

式段合格の記

長谷川 昌史

平成26年5月11日、日高市文化体育館での審査で、ようやく式段に合格することができました。「ようやく」、と申しますのは熊谷と上尾で2度不合格の無念を味わったからです。初段と式段とは中らずとも合格は可能である、との事前情報にも関わらず、中らなかつたとはいえ連続不合格も、結果に表れた現象からは当然との納得はありました。

しかし、3度目の受審を控え改めて過去2回を振り返り「ようやく」真の要因とも言えるものに思い到ったのです。それは、「審査の間合い」に惑

わされていたということです。「間合いで遅れてはならじ」との思いから落ち着きを失い、会も残身も全く不十分だったということです。その反省から、「間合いは守るものとにかく落ち着いていこう」との覚悟を決めました。全く当たり前のことで取り立てて強調する程もないことなのです。

審査当日は、事前に落ち着き過ぎ会場での1回目の呼出しに遅れ、初段受審終了者から「急げ!」との指示を受けるオチまで付けてしまいました。また会場での待ち合わせ中に、他の受審者に対する上段者からの「打ち起こした後は自分の時間だから」とのアドバイスも自分に対するものと解釈し、落ち着きの材料としました。

審査前には、道場で先生方諸先輩から、多くの問題点のご指摘を頂き、それなりに欠点をいくらかでも克服し本番に臨むことが出来たと思います。今後は落ち着きと共に、「気を抜かない」ことも自分の課題の一つと心得ております。今後共、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。どうも有難うございました。

弓道に絶えて審査のなかりせば・・・

中西誠一

昨年2月の初心者講座を終え4月に所沢弓道連盟に加入させていただいて約1年半がたちました。

6月22日の審査でおかげさまで何とか式段に合格しました。この間ご指導をいただいた諸先生、諸先輩のご指導に心より感謝いたします。

私は会社を退職してから弓道を始めましたが、弓道はもう完全に生活の一部以上のものになっており老後生活の良いスタートが切れたと思っています。

弓道は健康に良いし、会社とは違う新しい人間関係も新鮮で楽しいし、弓の実技はなかなか上達しませんとそれだけ奥深い道にチャレンジしているという充実感もあります。また、私は午前中道場で練習し昼食までとって帰ることを日課にしているので、「亭主が会社を辞めて1日中家でゴロゴロされたらどうしよう」という家内の心配も吹き飛んで、弓道は家庭円満の秘訣にもなっているの

です。

弓道を始めて良いことばかりなのですが、唯一困ったものがあります。「審査」です。これまで初段と式段の審査を4回受けましたが、このプレッシャーは大変で一度はこのために血圧まであがってしまいました(多分審査の影響だと思います)。実技もさることながら、筆記は覚えるそばから忘れていくという最近の脳力から苦戦を強いられます。

また審査会場の何とも重苦しい、緊張感一杯の雰囲気もあまりなじめるものではありません。「世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」という歌がありますが、「弓道に絶えて審査のなかりせば我の心はのどけからまし」というのが偽らざる心境であります。

しかし、式段に合格したのち、三段の審査に受かるためには、実技ではこういう点、筆記の傾向はこうだとかとすぐに考え始めるのはわれながら不思議です。一緒に審査を受けながら式段に合格した方「式段に合格すれば十分」とか言いながら、一カ月もたつと次は秩父だ熊谷だと参段審査の準備に大わらわです。結局人間の向上心を刺激しながら、弓道連盟の安定経営にもつながるとというのが審査の本質のような気がします。

私も式段合格してから四か月、やはり参段に向け諸先生の指導を受けながら日々稽古をしています。今は「参段合格目指して頑張るぞ!」です。

「審査」って不思議なものですね。

初段合格の感想

渡辺美枝子

私は退職を眼前に控えた昨年2月、所弓連初級者教室に参加させていただき、生まれて初めて弓を握りました。

丁度その頃弓で禅に出会ったドイツ人哲学者オイゲン・ヘリゲルに関する著書を読んでいました。その一節に「中りへの執着から逃れられないヘリゲルを、阿波研造師範がある晩道場に呼び出し、的の前に線香を1本だけ立てた真つ暗闇の中へ向かって一手を舞います。あづちへ行って見ると、

乙矢が、的の中心に中っていた甲矢の筈を砕き篋を割いて並んで刺さっていた」というくだりがあります。

ヘリゲルと同様、私もなぜ矢があたるのだろうか？的が見えないのに、大変興味を覚えたことを思い出します。

朝練に入れていただき、初段を目指して稽古を重ねました。しかし、大三から引き分けがうまくできず課題は続きました。今年2月、初段審査1回目にチャレンジ。やはり不合格。ショックは隠せずこの先やっていけるものか不安になり、このときは先輩の皆様にも励ましを戴いてありがたかったです。

そして5月初段審査2回目にチャレンジ。審査では前回同様に弓をどんな風に引いたのか頭は真っ白で覚えていません。このときの緊張感は過去に経験したことのないタイプです。発表までは心配で心配で落ち着かず★いよいよ発表**やった！不器用な私ですから、初段に合格することは夢のようです。涙涙、人生感動ってこういう事(ちよっと大袈裟かな)

初段を目指したこの1年、朝練では海老名先生そして弓の大先輩の皆様にも囲まれ、適切なお指導のもと稽古ができたことに、心より感謝申し上げます。また、渡邊先生はじめ諸先生、諸先輩の皆様ありがとうございました。

真冬の朝練はまだ暗く、手足が凍え、息白く、しかし1日の始まりとしては気分上々、なぜか充実感を感じながら仕事先へ。日々頭のなかは弓のことばかり。時には電車を待つホームで大三～引き分けのポーズを。電車の中、つり輪を握り、足は外八字に。(我ながら感心!) いまだに弓の上達は牛歩、いや亀歩でしょうか。

見原先生には弓道教本103ページ「いかなる人間行動においてもその原動力となるものは本人の意志の力である」との説明を戴き、その意味を反芻しながら、自分の課題に立ち向かう姿勢が大切と考えます。

これからもよろしくご指導お願い申し上げます。

初段受審して！

宮嶋重明

5月11日、日高市にて行われた第二回地方審査にて初段に合格が叶いました。

昨年6月「初心者教室」の門を叩いて以来、およそ一年、我慢強く熱心にご指導頂いております先生方、諸先輩の皆様には心より御礼申し上げます。

受審申請書に「師事する先生」としてお名前を拝借させて頂きました大先生にご報告したおり、「これからですよ!!」と激励を頂きましたが、私自身にとっては「無」から「有」が生じたこの瞬間に得た感慨は余生の大きな思い出の一つとして心に残ると思います。

今回の受審に際しては、「引き分けの最後の方で矢口が空く」というウィークポイントが、前日まで解消しきれずやや不安を残しておりました。

当日は、事前に会場の下見をしていたこともあり、緊張しながらも比較的まわりは見えていたのですが、「甲矢」を打起したとたんにウィークポイントが頭をよぎり、頭の中が「まっしろ」になるという経験を初めてしました。その後、なんとか発射は出来たようで「パーン」という的中音ではっと我に帰りました。因みに「的」が見えた「乙矢」は外しましたが、「摺り(掃き?)矢と幕撃ち」だけは駄目という諸先輩の教えは守る事が出来、取りあえず安堵した次第でした。

尚、今回の本座への入場はこの日まで聞いた事の無かった「5歩1歩」でした。後学のため付記しておきます。

生意気な表現ですが、今後も、中てることはこの次にし、「正しければ中る(但し、正しくなくても中る事がある事を戒めつつ)」を信じて、「射法八節」に拘りつつ、私の憧れとする「威儀正しく、質実剛健、従容典雅」を目指して稽古を積んでいく所存ですので相変らぬ、厳しくも優しいご指導の程宜しくお願い申し上げます。

∞ お知らせ ∞

市弓道場(神社道場)一時立入禁止

市弓道場は、衆議院選挙の投票所となるため、以下の期間、立入禁止となります。

その間道場留置きの弓具等を使用する方は、

12月12日(金)迄にお持ち帰り下さい。

12月13日(土) 設営日(全日)

“ 14日(日) 投票日(全日)

“ 15日(月) 撤去日(午前)

審査申込書記載について

審査申込書の記載内容については、再三・再四正確に記載するようにお願いしていますが未だに不適切な記載が多々見受けられます。

埼弓連の定めた「審査申込書(五段以下)の記入要領」(道場内に常置)の中から主要な項目を下記に掲載いたしますので記入の際の参考にしてください。

- ① 黒いボールペン又は万年筆を用いて**全て楷書でわかりやすく**自筆のこと。
- ② 審査申込書の(注)欄を確認して記入する。
 - ・受審者は太線枠内の事項について記載する。
 - ・虚偽の記載ある場合には、無効とする。
 - ・複写した用紙は受理しない。
 - ・**楷書で自筆のこと。**
- ③ 氏名は後日訂正することのないよう正しく記入する。**(自分の名前が間違われないうちに楷書で正確に書いてください)**
- ④ 住所は正しく記入する。電話番号も忘れずに記入する。**(自宅電話 / 携帯電話の区分を必ず○で囲んでください)**
- ⑤ 審査種別の「無指定」の欄は横二重線で**必ず消してください。埼弓連の審査では「無指定」の方式はとっていません。**
- ⑥ 弓暦は、入門時及び現在の状況を中心に記入。
例(平成〇〇年〇〇月 現在(教士六段〇〇〇〇) 師範に師事している)とかっこ内も正確に書いてください。
- ⑦ 講習受講欄は、過去5年以内を対象に、県又は

支部主催のものを記入する。

- ⑧ **審査名称は要綱等に従って間違いなく記入する。(例：埼玉(第〇回)地方審査)**

(注1) 上記以外に(昭和 平成)(男 女)など区分にしたがって丸印を記すものは必ず○を付けてください。

(注2) **昇格・昇段後は速やかに報告書を提出してください。(審査受付担当)**

市弓道場内の個人弓具について

既にご承知の通り、市弓道場は来年度以降新たに建て替えられます(時期未定)。建て替えの前に既存の建物を撤去いたしますが、市弓道場内に置いてある各自の弓道具は事前にお引き取りください。撤去の際には前もって弓具引き取りの注意書でその旨をお知らせいたします。宜しくご協力お願いいたします。

∞ お悔やみ ∞

10月6日、弓道参段矢野文雄さんがご病気のため逝去されました。卒寿になられる直前でのことでした。

矢野さんは、穏やかで暖かい人柄と楽しい語り口から皆さんに大変慕われていました。

弓道のほか和歌や油絵にも造詣が深くまた家庭菜園3ヶ所で野菜作りに励まれ、お年をとって益々身軽に生活を楽しまれていました。

今回の逝去の報は、まことに残念なことで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

∞ 会長月誌(抄) ∞

平成26年 4月10日

所沢市スポーツ振興課・営繕課

・市弓道場建て替え打ち合わせ(秋田議員立会)

4月12日

熊野神社春期例大祭

・玉串奉奠

4月23日

市体育協会役員会

- ・26年度評議員会について

5月10日

県理事会

- ・平成26年度事業方針

5月10日

熊野神社氏子会総会

- ・市弓道場の建て替えが承認された

5月25日

県総務委員会

- ・平成26年度活動方針

5月28日

市体育協会理事会

- ・26年度評議員会について

6月 6日

市体育協会評議委員会

- ・年次総会

6月20日

所沢市藤本市長面談 (NPO 法人化関係)

6月22日

所弓連臨時総会 (仔細前掲)

7月14日

八雲神社例祭

7月17日

シティマラソン実行委員会

7月31日

市体育協会役員会

- ・慶弔内規見直し他

8月 2日

東西新井町盆踊り大会お祝い持参

8月18日

青少年三道大会打ち合わせ会

- ・今回弓道連盟幹事

8月23日

県総務委員会

- ・会員名簿作成について

8月26日

市体育協会役員会

- ・慶弔内規見直し他

9月 4日

シティマラソン総務部会

9月11日

市体育協会役員会

10月 2日 (大安)

NPO 法人設立登記完了

10月 9日

熊野神社秋の例祭

10月28日

所沢市スポーツ振興課の三上宮司への市弓道場解体範囲の説明に立会

(注)NPO法人化及び市弓道場建て替え関係の顛末については、追って所弓便に掲載する予定です。

∞ 編集後記 ∞

熊野神社境内に、所沢市弓道場が出来たのは昭和46年のことでした。

当時、所沢市で初めてのスポーツ施設として、競技人口の比較的少ない弓道の道場を建設するにあたっては、所沢市弓道連盟諸先輩方のご努力はもとより、当時の市長、市議各位、熊野神社、氏子会ほか地元の方々の絶大なるご支援、ご協力があったことでした。

昭和54年には遠的場が併設され、翌年の栃の葉国体で、全員が所沢所属の埼玉県チームが成年女子遠的部門優勝という輝かしい成果をもたらしました。

この道場のおかげで、所沢市弓道連盟は、数多くの称号者、高段者を輩出し、全国でも有数の会員数を誇る連盟に成長してまいりました。(次葉に続く)

しかし先輩方が築き上げ、40数年に亘って慣れ親んで来たその道場も、2年半前に射場の床は張り替えられたものの、近い将来建て替えが必要なほど全体に老朽化が進んできております。

しかし、残念なことに市には建て替える予算がなく、このままではいずれこの道場をあきらめざるを得ない状況にありましたが、幸いなことに建築費を寄進して下さるという篤志家の会員が現れ、連盟各位の尽力の結果、市当局や、神社、氏子会など地元のご理解・ご支援も得て、今般NPO法人として連盟が道場を再建する道が開かれたのです。

市の弓道場であって、当初より会員の自主管理により運営している道場は他にはなかなかありませんが、今後は名実ともにNPO法人所沢市弓道連盟の施設となります。

会員一同これまで以上に自分たちの道場として、また地域の施設として大切に使用してもらおうという気持ちを忘れず、また切磋琢磨し合いながらもお互いを尊重し、弓道人として、人間としての成長を目指して行く場とするよう、そしてそれが次の50年、またその先まで続いて行くよう、その運営にも一致協力して取り組んで参りましょう。(飯島)

編集委員

飯島稔凱 甲斐久歳 小林康則
山口正彦 山口ひろ子

所沢市弓道連盟広報誌 所弓便 第14号

発行日 平成26年11月30日

発行者 NPO 法人所沢市弓道連盟
会長 新家 透